

令和3年度 中央区立月島第一幼稚園		外部評価報告書	
外部評価委員：高木 悦子 山口 啓朗 増田 光辰 木皿儀 孝子 黒川 悦子 長島 広隆			
報告書作成者：株本 光子			
評価時期 令和4年3月			
1 重点目標の評価			
重点目標1「自分から取り組む意欲を育み、健康な体づくりを推進する。」			
保護者の98%が肯定的な評価をしている。園でも手洗い、うがい、マスクの着用等の生活指導を丁寧に行った成果だと評価している。全教員で同じ目標に向かい、幼児の状況を的確に捉えながら、個に応じた取り組みを実施した成果であろう。			
さらに、2名の教員が、「必要な生活習慣について、いつまでにどの程度身に付けるか」「どのように身に付けるか、園としての押さえを明確にし、家庭と連携した指導をする必要がある。」と意見を出した。			
これは、学校全体を改善するために重要な視点である。今後、他の目標についても、この視点を大切に全教員で実践し、園の教育活動の質を向上していただきたい。大きな期待がもてる。			
重点目標2「多様な感情体験を通して、人とかかわる力を育む。」			
他の重点目標と比べて、「評価が最も低い」「保護者と教員の評価の差もある」と他と比較をしながら分析している。比較・検討することも、そのデータを客観的に見ることにつながり、成果・課題、その原因等が見えてくる。			
ここでは、その原因に保護者がわが子の成長を実感できるような発信不足を挙げた。改善策として、葛藤を乗り越え変容する様子やその時の幼児の気持ちなどをとらえて、降園時に保護者に伝えたり、学級だより等で発信したりして、目指す姿と育ちを共有できるようにしたいと改善の方向を示した。次年度の改善が待たれる。			
重点目標3「好奇心や探求心を引き出し、思考力の芽生えを育む。」			
「試行錯誤をする楽しさ」に、保護者・教員とも「十分達成している」と高い評価をした。園内研究で、このテーマを取り上げ、教職員全体で教材研究をしてきたこと、それを玄関掲示やホームページ等で保護者に積極的に発信した成果と分析している。園は、育てたい幼児の姿を明確にもち、教職員全体で取り組んだこと、深く考え丁寧に保護者に発信することの重要性をここからも学んでいる。幼稚園運営の基本の一つである。この収穫を大事に次年度の教育活動に生かしていただきたい。「気持ちの伝え合い」についても、成果・課題等を共有したいと思っている。			
2 今後の改善に向けた意見			
○ 「自己評価」「保護者の全体評価」のデータからも、幼稚園公開、情報発信など地域に開かれた運営を望む意見が見える。また、保護者が幼稚園の教育に積極的に関わる、家庭と共に幼児を育てる方法を見出し、連携したいという声が聞こえる。			
コロナの感染が危惧され、容易に園の公開が難しい。だからこそ様々な方法で、家庭・地域と幼稚園が手をつなぐ、互いに手を差し伸べる必要があるとの声もある。呼びかける、伝える、お手紙を配るだけでは補いきれない保護者・地域との情報共有の在り方について今後も考えていきたい。そして、「協力します」「積極的に関わりたい」という声をさらに幼稚園運営の力にしていきたい。			
○ 評価項目の②③の分析・考察は個別に実施し、改善につなげて欲しい。貴重な回答を大切にしていきたい。			
3 その他			
今年度の学校評価からも明らかになったように、一人一人の教員が目標に向かって、幼児を具体的にとらえ、個に応じた指導をすることが大切である。教育の基本を大切にする月島第一幼稚園の今後の発展が期待できる。			

